

置賜支部生涯研修に参加して

菅野 康弘

今回、置賜支部生涯研修に参加させて頂き、大変勉強になりました。私は、以前から義歯について興味を持っていたので、「義歯のなごを知る」というテーマに、どういった内容なのかとしても楽しみにしていました。実際に講義をお聞きして、難しくてもよく理解できなが、た点もありましたが、患者さんに義歯をセットした時にゴム咬み試験で転覆する様子や、

実際の臨床のケースを交えて、それぞれに対
べした人工歯の排列方法など、どれもとても
興味深いものに感じました。私は、臨床実習
の中で、上下顎総義歯の症例を頂いたことが
あ、たんですが、それが転覆する義歯になっ
ていないが心配になりました。これから臨床
に出ていく私としては、早くこういった知識
を理解できるようにも、と勉強しなくてはな
らないという気持ちになりました。

そして、午後からの実演を交えての講義で

は、後方運動を考慮した人工歯の咬合調整の仕方を、始めて知り驚きました。また、義歯の対合歯になるクラウンは、三角隆線や深い溝が人工歯を咬ませるのに、かえって邪魔になっ てしまうことなど、義歯を作るには、歯冠修復の知識も必要になることが分かりました。片寄った知識ではなく、様々な角度から見 て作れるようにならないと、患者さんに良い技工物は提供できないと改めて感じました。私はこれから、国家試験へ向けてしっカリ

勉強し、この研修会で教わったことを理解し役立てるようになれる歯科科技工士になれるよう頑張りたいです。貴重な研修会に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

講習会に参加して

藤 弘 樹

今回、生田龍平先生の講習会に参加して、
これから社会に出ていく私達にとって大変勉強
になりました。

私達二年生は約二ヶ月間歯科医院に行つて
臨床実習を行いました。そこで先生の
症例を製作させてもらって中で下顎の義歯
を製作しました。私は患者さんに食べ物によ
く噛める義歯を製作しようと思つて咬合関係に

重点をおいて排列してしまいました。しかし
今回生田先生の講義を聞いて様々な要因で義
歯が覆復するというのがあり、その臨床実習で
製作した義歯が、くら噛み合つていなくて
も排列位置や排列角度がおかしくなったら義歯
が安定しなく患者さんにとってとても不便な
義歯になるのだと痛感しました。

私はこれから福島市の義歯専門の技工所で
働きます。今回の講義では勉強不足でわから
ないことが多々ありましたが、今の時期に生

田先生の講義を聞いたことはとても貴重な体験
となりました。義塾を志願する者としては
私の悩みがあると思います。そこで私達
理工科工士は、勉強し技術を身につけて機械技術
に対応し患者さんの悩みを解決していきければ
ならないと思います。

今回、講義をして下さった先生田龍平先生
主催して下さった山形県理工科工士会
支部のみなさまありがとうございました。
水からも、今回のような機会がありましたら

自分自身の技術向上のため参加させていき
きたいと思いますのでよろしくお願い致します。

「生田先生の研修会に出席して」

福岡県立総合衛生学院歯科授業料2年
佐藤 愛

昨年の「口蓋板体験」に続き、貴重な研修
会に出席させて頂きありがとうございました。
昨年は、口蓋板を製作、装着したまま食事を
したり、会話などを体験してみても、あんなに薄い
口蓋板でも異物感などを感じ、義歯を装着す
る患者の大変さが分かりました。日頃学院の
先生方が「患者さんの身になって製作する」
という事がいかに大切かが分かりました。
今回は、「義歯のなぞを採る」と転覆しな
い
排列方法と咬合調整について」という昨年
にも増してとても面白く、とても勉強になる
研修会でした。私は今まで転覆する原因は吸
着力の低下から引き起こされるものだと思
ていました。患者さんにゴムを噛ませ、転覆
するが調べる方法にはとても驚きました。も
し、自分が製作した義歯があのように転覆し
てしま、たらと考えることも申し訳なく思
います。また、転覆する義歯は潰瘍を誘発し、
不正に動き骨吸収を起こしてしまうため、転
覆は必ず防がなくてはならないと改めて思い

ました。保険でも保険外でも、転覆を防止する
る為に、生田先生のこのような方法が活用さ
れ、より良い義歯が患者さんに提供できるよ
うになればと思います。

国家試験まで残り数日ですが、合格できる
ように精一杯頑張りたいと思います。そして
昨年と今回の貴重な研修会で得た事を無駄に
せずにこれからの製作に活かしていきたいと
思います。

昨年に続き、貴重な研修会に出席できた事

をとても嬉しく思っています。これからも機
会がありましたらたくさんの研修会に意欲的
に出席し、たくさんの知識を得て、活かして
いきたいと思っておりますので、よろしくお願
い致します。

講習会に参加して

佐藤 優香

先日は、とても勉強になる講習会に参加させていただき本当にありがとうございました。今回の講習会では転覆しない義歯の排列の仕方についてのお話を聞かせていただいたのですが、今まで自分がいかに何も考えずに排列してきたのかということに気付かされました。私が最も驚いたことは、人工歯の排列する角度をほんの少し変化させるだけで、義歯の転

覆の具合が全く変わってしまうということなのです。排列の仕方ひとつで、二人なにもはつきりと差ができてしまうなんて思ってもみませんでした。また、顎骨の形など、患者さんひとりとひとりによっても人工歯の角度を考え、排列しなければならぬことも知ることに

授業だけではわからないこと、知ることで

きながったことを学ぶことができて、本当に
よかったです。講習会の内容は、まだ臨床を
経験しておらず勉強不足な私には、完全には
理解しきれなかった面もあり、もっと知識を
つけなければ、と強く感じました。これから
も日々勉強を重ねて、自分の知識や技術を増
やしていきたいと思っております。そして、どんな
症例にも対応することのできる技士を目指
したいと思っております。

それでは、本当にありがとうございました。

置賜支部生涯研修に参加して

藤澤 香菜

二月一日、南陽市「えくぼプラザ」で行われた生田龍平先生の講演会に参加し、転覆しな
い排列方法と咬合調整について学びました。

生田先生の講演の中で、「コグム噛み試験器
四ヤ可四ツ球咬合採得器」というのを初めてみ
道具や技エも活かすといくつかありました。コグ
ム噛み試験器は簡易的な物であると感じ
自分でも製作して咬合器上でためしてみたいと

思います。また、龍貝大学にある下顎位の運
動を再現するコンビーターには驚かされま
した。下顎全体の動きだけでなく、下顎頭
の微細な動きまでも正確に再現されている
現代の歯科技工には解剖学的な知識が強く求
められている。避けることのできる分野だ
と感じました。

人工歯排列に関しては、私は排列の上
顎法や下顎法といったような教科書に
あらずに、リアル通りの排列しか知りません

した。あたりまえのことですが、顎の形や運動の仕方は、骨の吸収は個人差があるわけに、あくまでも基本は上顎法や下顎法のような排列であつても、それを応用し、口腔内を十分診査したうえで、の排列をしなければ安定した義歯と製作するのは不可能だと痛感しました。

私は臨床実習でクランクやインレーを製作した時、模型にあるフアセツトや側方運動で、また滑走面に、さほど注意していながら、にし、それが補綴物や顎の運動になえる影響を

と考えたことはあつませんとした。そのくらい無神経な歯科技工士だと思います。

生田先生は「去年の講演で言つて、このことも今年になつてまた違う考えになつてゐるし、あつていふとした。そのくらい歯科技工士は終つてゐると思つてゐる。新しい知識や情報が毎日流れてくる中、私は取り残されたように勉強してゐる」と思ふます。

生田先生の講習会も聴講して

山田 彩沙子

先生のお話は難しいところもあるが、すべて理解
することはできませんでした。が大変興味深
いお話でした。

私はまだ臨床経験もなく、基礎実習で頭提
がし。が、りした模型で、教科書的な排列の
本で、しが排列したことがありませんでした。
先日、臨床実習という臨床に能える機会があ
りました。が、臨床では、多く、咬合の患者

反対側咬合の患者、頭提が極度に吸収した
患者等、基礎実習の知識では対応にできません
という症例がほとんどでした。実際に反対側
咬合の患者の殆ど義歯も製作しましたが、上
手くい、たとは言い、た、いものな、てしま
いました。セ、トの時に患者に旧義歯より、は
脱落しな、いが、やはり脱落すると言われまし
た。二人から臨床を行、ていくにあ、て、
先生のお話を、い、かして、噛める義歯を製作す
るために探索していき、たい、思います。

先生のお話の中でも特に、下顎の顎の骨
形態によつて、フリップトがモソソソ、パッチ
モソソソの排列を遅延するもの、は、はじ
めて知つたことであり、大変興味をひかれま
した。意識して、観察してみようと思ひます。

研修会に参加して

古田 敦

今回の生田龍平先生の研修会に参加して、
とても勉強になりました。『新曲』という曲を探
るというテーマにひかれ、このような講義
をしていただけたことが楽しみにしていまし
た。

実際に講義を聞いてみると、自分の知識が
足りなく理解できなかった点もありました。しか
し、今まで知らなかったことも自分の新しい

知識にすることができたことで実感しています。

下顎骨の状態によって、フット、モシリ
ンカーブ、アンチモンリンカーブに人工歯を
排列したり、新曲を患者にセットして、ゴ
咬み試験で転覆する様子など初めて見るもの
が多く、とても興味深いものに感じました。

今回の生田龍平先生の講義で得た知識は、
基礎練習しか知らない学生である私達にはま
だ即戦力として活かすことができない知識が
もしれません。しかし、この知識は臨床にで

て自分が悩んでいる時に、絶対に役立つ知識
だと思っています。

臨床に下り、今回得た知識を十分に発揮す
るにいかできるように、勉強していきたく
思っています。

貴重な研修会に参加させて頂き、ありが
うございます。

置賜支部生涯研修に参加して

石井 留美

生田龍平先生の「義歯のな」を探るしを聞

いて、分からないうまばかりでしたかとして

勉強になりました。

合めたいものを作ると思者さんは怒ります。

それはそれだけ困っているというこ、浅か

たい義歯を作ることは難しく、このような患

者さんの声を受けとめることが大切である

ということ。義歯には「うまい」「うまい」「うまい

「た」「た」「うまい」「た」「た」の四つ

のタイフがあり、問題なのは「うまい」「た」

「た」「うまい」の二つであるというこ。この

ようなことが生じるのは、試適時と装着時と

で多少の変化があり、何故そうなったのかを

えることが大切であるというこ。噛めない

義歯とは、ゴムを噛ませてみると思歯が転覆

し、そのような義歯は傷いというこ。また

上顎の多少の動揺は噛めるが、下顎が動く

と噛めなくなり潰瘍ができてしまうというこ

と。そしてそれか足縁にできるのは義歯が動く
ためにできたものなりで、動かかないものを
作らなければならぬといふこと。義歯が不
正に動くとき、一部で当たっているところが骨
吸収を起こしてしまい、そうなってしまった
らどうにもなりません。なので、義歯を装着
してめた患者さんの感想をおたちらがどうとう
えんかが重要であるといふこと。排列角度に
は「ラット、ソニソニ、アニタソニソニ」があ
り、骨吸収によつて使い分け、この角度をちよ

つと変えるだけで義歯の転覆が起こる。とり吸
着力が変わってくるといふこと。義歯が動く
のは下顎なので下顎に合わせて排列するほう
がよい。つまり下顎が基準であるといふこと。
骨吸収されていって支えがない場合は「ラット
に排列し、顎堤の高さによつて咬合高徑を変
えて安定させる」といふこと。など、他にまた
たくさんありたくさん学びました。

実習で総義歯を製作したけれど、これほど
難しいものかとは思っていませんでした。改

めて義歯の深さを知り、その深さに自分もの
めりこみたいと思いきしました。どんなに時間を
かけても患者さんに合ったものが作れるとい
うわけではなく、患者さんのためにと作ったもの
ので患者さんから、一ご飯の時は取ってさ
す。いやー見ている分にはすばらしい入ればなん
だけとね。喋りこつと言われたりしてすごく
かたくなに感じました。そして、義歯に対して何
も知らないに喋りしいような少ない知識で、ま
た時間に追われ全体を考えろ気欲もなく製作

した義歯に対し、自分は義歯を作った身になっ
ていて、義歯を作ったという達成感に満たさ
れていたただけではないうるが、自己満足に過ぎ
なかつたのではないかと考えさせられ、そん
な自分が恥かしく思い、私たちは患者さんとい
つながつていこうと反省しました。

生田先生のお話を聞き、義歯に対して以前
以上に興味がありました。そしてもっとも
と知りたいと思いきしました。なうで、歯科技工
研究では義歯について調べ、勉強し学んでい

きたいと思っ
ています。また、
生田先生との
出会いで、義歯に
対する見方や考
え方が変わリ
ました。とし
て、真の技工を
教えてもらっ
た気
がします。患
者さんに合っ
た動かない義
歯を
作るというこ
とは永遠の課
題であり、日
々迷
み研究して
いく中、それ
が楽しんで
できたう
近道になる
のではない
かと感じま
した。技工
は患者さん
がいての技
工であり、そ
の技工物
の背影には
患者がいて
いるのだと
いうことを
忘れ
てはいけな
いと思いま
した。

生田先生のお話
が聞けてとて
もよい経験
が
でき、本
当にうれし
く思います。
ありがと
う
ございました。

生田龍平先生の講習会を聞いて

高橋 泉

先日開催された生田先生の講習会に参加させていただきました。生田先生のスライドではごはんを食べると義歯が痛くて外して食べる人がいることと、合わない義歯しか作ってもらったことがないから歯科医院嫌いになっ
ている患者さんがいることに驚きを感じました。そして歯槽骨の吸収の仕方、人工歯を排列する傾きが違うという話がありました。

教科書的な知識しかない私には理解すること
が困難でした。ただその中で感じたのは、前
に集まり患者さんの模型を実際に用いて、症
例について話しあった時、プロの歯科技工
さんでも再製することもあるし、^{いい}義歯が
作れなくて悩むこともあるということでした。
実際見た^ッ、聞いた^ッした症例は、教科書で
習った事はどこで役がたつんだろうと思いま
したし、^{歯槽骨}がこんなに吸収しているのに
^{義歯}は外れないのかなと思うものがかりでし

た。千差万別の口腔内に向かいあう歯科技工士は、知識と新たなる挑戦という感じがしました。

先日、局部床義歯技工学の授業で私達は口型プレートを製作し実際に装着してみました。発音もしにくく、咀嚼をすればプレートは軟弱するし、食べ物もおいしくないし、いいことは全くありませんでした。この経験をした事で、物を食べる時義歯を外す人の気持ちがよくわかりました。義歯をつけるという事

は、口腔内に異物を入れて、食物を食べるという事です。改めて考えると痛そうだし人エ歯で肉を噛みきれぬのかなと不安に考えている患者さんはたくさんいると思います。私は歯科技工士を目指す学生として、将来そんな困っている患者さんに噛める喜びや、食べる喜びを感じていただきたいと思います。そのためには今のうちから患者さんの事を考えて、勉強していかなければならないと思います。

最後に、今回の講習会に参加して今までの
考えを改める大に貴重な時間を過ごさせてい
ただきました。横浜から山形まで足を運んで
くださった生田先生、そして講習会を開催し
て私達学生を受け入れてくださった山形県南
理工工士会のみなさん、本当にありがとうございました。

講習会に参加して思っただけのこと

歯科技工学科一年6番 西城夏希

先日、生田先生の講習会に参加させていだ
だき、スライドとデモを拝見してただただ感
嘆するばかりでした。授業で習うことは、歯
科技工のほんの一部で、臨床の場に出てから
は、さらに学ばなくてはならないことが数多
くあることを知りしました。そして、もっと勉
強しなくてはならないということも再確認し
ました。

実習を行う際には、私はただ単に実習をこな
すという感じになっ てしまっ ていきます。それ
ではいけないと思いつながらな 期日に間に合
わせようとすると、そうなっ てしまふのです。
しかし、私たちゝ作業の先には、患者さんが
いるのです。臨床の場に立っ た際、患者さ
んが満足できる技工物を作りた いです。だが
ら、ただ単にこなすのではなく、実習の一ツ
一ツを理解して実習に取り組んでいきた いと
思っています。

先日、歯科医院に見学に行き、セプトに立ち会うことができました。その時、患者さんは、满面の笑みでOKサインを出していました。その笑顔を見て私まで笑顔になっ てしまいました。患者さんの笑顔程きれしいものはないと思います。患者さんが笑顔になれるような技工物を作る歯科技工士になりたいです。

また、授業で口蓋やシートを製作し、装着体験をしましたが、口腔内は大変敏感で、咬合をしてゐた場所は、とても痛く感じました。

患者さんは、義歯を装着しなければ、話すことも食べることもできません。その患者さんに痛い思いや不快感は与えたくありません。患者さんに最高と思つてもらえる義歯を作りたいです。そのために、今できること、基礎知識をしつかりと学ぶことだと思っています。

最後に、このような貴重な講習会に参加させていだき、ありがとうございます。理解しき水なが。たこともたくさんありましたが、大変勉強になりました。また、この講習会に

参加して、自分が今すべきことが再確認でき
ました。今回の貴重な体験を生かすことがで
きるようになすためにも、これから日々勉
強に励みたいと思います。